

文部科学省「知識集約型社会を支える
人材育成事業」は何を生み出したのか

第2回

新潟大学の挑戦

マイナーをメジャーに

芝浦工業大学 元学長
知識集約型社会を支える人材育成事業委員会 委員長 村上 雅人

新潟大学は、新潟市に本部を置く国立大学で、一九四九年に設立されました。人文社会科学、教育、医歯学、理工学、農学など幅広い分野を有し、学生数が1万2000人を超え、教職員数3300人を擁する総合大学です。地域社会と連携した教育・研究を重視しており、医歯学分野や脳研究、環境・エネルギー分野に強みを持つと定評があります。また、文科省の地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J・P・E・A・K・S）にも採択されており、研究分野でも日本を先導する大学の一つです。

キャンパスは五十嵐地区と旭町地区を中心に展開し、多様な学生に学びの機会を提供しています。地方創生や国際化にも取り組んでいます。また、教育改革にも積極的であり、大学人からは高い評価が得られています。

D・P事業の取組である「全学分野横断創生プログラム」にも注目が集まっています。ところで、その愛称は「NICEEプログラム（Niigata University Interdisciplinary Creative

いないとも指摘されています。マイクロクレデンシャルはM・O・C・sのようなオンライン教育とも親和性が高く、また、世界のどの国でも通用する可能性があるため、マイクロクレデンシャルの積み重ねによって世界水準の学位取得につながる可能性もあります。

また、マイクロソフトやグーグルなどのIT企業は採用にあたって、学位の有無を不問とし、独自に設けたオンラインの学修コースを修了した学生（あるいは社会人）を優先的に選別するようにもなっています。

学修創成マイナー

一方、本事業の大きな特徴でもあり、事業委員会が話題になったのが、学生が個別にプログラムをカスタマイズできるオーダーメイド型の学修創成マイナーです。つまり、学生自身が履修を設計できるという画期的なプログラムなのです。

多様な授業科目から自分で履修科目を選び、オリジナルの学びの組み合わせを作る「セルフメイド型」であり修了には14単位以上が必要となります

学びのプロセスとしては、課題設定・計画立案から始まります。必修科目「分野横断デザイン」において自分の興味・問題意識からテーマを設定します。つぎに、科目履修については、設定したテーマに沿って、学生が授業を自由に選択することができます。最後に、「分野横断リフレクション」で学びを振り返るとともに、整理・総括をします。学修創成マイナーは、単なる副専攻ではなく、「自分で学びをデザインする

Education Program）」ですが、ナイスですから覚えやすく親しみのある名称に工夫されており、大学のウィットを感じます。

メジャー・マイナー制

本プログラムの最大の特徴は、「メジャー・マイナー制」を全学的に導入している点です。メジャーは所属学部における主専攻であり、マイナーはそれとは異なる分野を体系的に学ぶ副専攻のことです。たとえば

工学（メジャー）＋社会科学（マイナー）
農学（メジャー）＋環境政策（マイナー）
医学（メジャー）＋データサイエンス（マイナー）

というような組合せにより、他分野を体系的に学修することが可能であり、複眼的視野を獲得することができます。新潟大学は10学部を擁し、メジャーとマイナーの組み合わせにより約1600通りを超える学修パターンが可能とされています。

教育プログラム」です。専門（メジャー）に加えて、自分の問題意識に基づく学びを組み合わせることで、新潟大学が掲げる「分野横断型人材」の育成を体现する制度と言えるのではないのでしょうか。

アカデミック・アドバイジング制度

とは言え、数多くある科目群から新入生が履修科目を選んで設計することは、それほど簡単ではありません。そこで、新潟大学では、アカデミック・アドバイジング制度を導入しています。

もちろん、マイナー・プログラム履修ガイドなどの案内もありますが、やはり、自由度が高いため、学生がすべて自分で設計するには限界があります（もちろんアドバイスをうけずに、自力で設計する学生もいます）。本人の能力や希望を加味しながら、学際的な学修を成立させるナビゲーターとしてアカデミック・アドバイザーが配置されているのです。

さらに、アカデミック・アドバイジングは、教員と職員が連携して実施されています。ここで重要なのは、学生の「気づき」を引き出す支援です。単なる助言ではなく、学生自身が持つ「資源（経験・関心）」に気づかせ、学びを主体的に構築させるという支援スタイルです。

大変すぐれた取組です。単なる一過性のアドバイスではなく、学生の学びを「設計」し、その実行を「伴走」し、成果を「振り返る」という一連のプロセスを支える仕組みは、新潟大学における分野横断型教育であるNICEEプログラムの支柱であり、魅力でもあります。

もちろん、従来からメジャー・マイナー制度はありました。新潟大学でも平成十七年（二〇〇五年）から副専攻制を導入しています。ただし、従来型の副専攻では、24単位以上が修了要件でしたが、そのなかで12単位までしか卒業単位としては認めてられていませんでした。

パッケージ型マイナー

今回の事業では、従来の副専攻に加えて「パッケージ型マイナー」と「学修創成型マイナー」を導入しています。パッケージの大きさは、12・14単位です。パッケージ型では、あらかじめ指定された科目群から履修科目を選択する方式ですが、総合大学の教育資源を最大限に活用することで、人文・社会・自然・応用科学など幅広い領域において45を超える学際的なパッケージを提供しています。学位プログラムに比べて、短期間に履修可能であり教育目標つまり育成すべき能力も明確となります。また、マイナーの単位はすべて卒業単位として認められています。

新潟大学ではマイナーに対して履修証明を出していますが、このスキームは、現在世界的に注目されているマイクロクレデンシャル¹との親和性が強いです。質保証された教育プログラムとして成立しますので、デジタル証明であるオープンバッジを付与すれば、国際通用性のあるパッケージとしても有効と考えられます。

高等教育の質保証においては、「大学が何を教えたか」ではなく「学生が何を学んだか」が重要視されています。現在の学位では、大きすぎるうえ、学生が獲得した能力の証明にはなっ

また、委員会で話題になったのは、これだけ手厚い伴走支援をするとなると、担当のアドバイザーや教員への負荷が過剰になるのではという懸念でした。実際に、アドバイザーの方々は手ごたえを感じる一方で、履修者が大きく増えた場合には対応が厳しくなるとも話していたようです。

新潟大学では全学生の3分の1がマイナーを受講することを目標にしています。一般的な相談対応などにはA・Iが一次応答し、より専門性が必要とされる相談や、学生の学修に対する伴走支援が必要とされる場合に、アドバイザーが対面に対応することがプログラムの拡大には必要と考えられます。

最後にまとめると、新潟大学のNICEEプログラムは、メジャー・マイナー制を基盤とした文理横断型教育システムであり、学生の主体的な学びを支援しつつ、多様な専門の組み合わせによる新しい知の創出を目指すものです。その本質は、従来の「専門の深化」に加えて「知の統合」を実現する教育モデルであり、日本の大学教育改革の一つの先導事例として位置づけられるものではないでしょうか。

△注▽

1 マイクロクレデンシャル（micro-credential：M・C）は「小さな領域の成績証明書」と訳されます。学位取得には124単位が必要ですが、M・Cはそれよりも小さな単位で「特定の技術や学問分野を所定の時間で学修した成果」の証明とされています。獲得した能力の明記や国際通用性の確保を通して、質保証のともなった学修証明として機能する可能性が高いため注目を集めています。